

令和5年2月10日
世田谷保健所
健康推進課

思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発にかかる 検討スケジュール等の一部変更について

1 主旨

令和4年4月に健康づくり推進委員会のもと、「思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツ周知啓発専門部会（部会長；東都大学 松田正己教授）」（以下「専門部会」という）を設置し、2回の専門部会等を開催後、9月に思春期世代の現状と思春期世代に向けた取組みの基本的な方向性を中心とした中間報告をとりまとめ、福祉保健常任委員会に報告したところである。その後開催した第3回専門部会では、中学生に向け提供する情報の内容、範囲の集約化や、より実践的な中身とする必要性について、議論があった。

これまでの健康づくり推進委員会及び専門部会並びに議会での議論を踏まえ、検討過程における思春期世代当事者の参画や教育委員会等との連携をより一層図る必要があることから、検討スケジュール等の一部変更を行うので報告する。

2 これまでの議論での課題

(1) 思春期世代に必要な情報の具体的内容の精査

- ・中学校で配付できる情報と、さらに深める情報の整理が必要。
- ・包括的な情報を隠さず提供することが必要な一方で、何が本質であるかという検討がさらに必要。
- ・全員に伝えるものと、初歩的なもの、中程度、高度等、発達段階に応じて必要な人に伝えるものを分けることが必要。
- ・学校の合意や意見を十分にすり合わせるべきである。
- ・言葉が堅くならないよう中学生のためのものとして、工夫すべきである。

(2) 若者に届く啓発の工夫

- ・与えたい情報と得たい情報のギャップ、情報はあふれている割には正しい知識がなかなか得られない社会であることを前提に、高校生、大学生のほか、当事者である中学生も検討過程に加えていくことが不可欠。
- ・若い人たちがアクセスするメディアについてさらに把握することが必要。

(3) 子どもたちを支える環境づくり

- ・中学生に伝え、相談を受ける側の大人達(教職員や関係機関職員、保護者等)の理解促進と相談への準備が必要。

3 検討過程において強化する取組み

これまでの検討に加え、以下の内容についても、教育委員会および校長会との協力体制をより強化するとともに、子ども・若者部との連携をさらに図りながら、健康づくり推進委員会及び専門部会での議論を踏まえた取組みを進める。

- ・都の「産婦人科医派遣事業～性教育の授業」、中学校への講師派遣事業「いのちと性の健康教育」における中学生へのアンケートの実施
- ・中学生の参加によるワークショップの実施（児童館等）
- ・研修等機会を活用した教員への理解促進（生活指導主任研修等）

4 今後のスケジュール（予定）

- | | | |
|------|-----|---|
| 令和5年 | 3月 | 第4回専門部会開催、健康づくり推進委員会報告
中学校「いのちと性の健康教育」等でのアンケート調査実施 |
| | 5月 | 第5回専門部会開催 |
| | 7月 | 第1回ワークショップ（中学生参加） |
| | 8月 | 保護者向け講演会
第6回専門部会開催、健康づくり推進委員会報告 |
| | 9月 | 福祉保健常任委員会報告
第2回ワークショップ（中学生参加） |
| | 10月 | 中学校教員への理解促進「生活指導主任研修」 |
| | 12月 | 第7回専門部会開催、健康づくり推進委員会報告 |
| 令和6年 | 2月 | 福祉保健常任委員会報告（最終報告、啓発物） |
| | 3月 | 思春期世代に向けた情報提供の試行と実践
第8回専門部会開催、健康づくり推進委員会報告 |